

共に考えよう 環境問題

浜松市内中学校

井上さん

みなさんは環境問題について実際に行動を起こしたことはありますか。

近年、地球温暖化という言葉をよく耳にする。大雨や猛暑、台風など様々な気候変動の原因の一つとして地球温暖化も挙げられる。ニュース、新聞などで誰もが一度は耳にしたことがある言葉ではないだろうか。地球温暖化という言葉は、今や教科書にも記載されており「常識的な知識」となっている。

しかし、環境問題に関する記述は、教科書の数ページ、授業の数時間で終わってしまっているのが現状であり、多くの人が実際に行動を起こすきっかけになっているとは考えにくい。そのため、環境問題や地球温暖化について、もっと深く理解してもらうために、実験を中心とした、企画講座を昨年の七月末に浜松市の協力を得て開催した。

実験では感じにくい、海面上昇の再現実験や二酸化炭素と酸素では、どちらがより温まりやすいのかを確認する比較実験を行った。さらに、経済発展に伴う、二酸化炭素の排出増加量の一例として、人の

息に含まれる二酸化炭素を見る実験をした。その他にも、地球温暖化への行動を起こすきっかけとして、打ち水による気温の変化と体感温度の変化を体験してもらった。イベント終了時、参加者にクイズ形式でのアンケートを実施した結果「温暖化について、深く理解することができた」や「打ち水など、すぐにできることがあり、驚いた」などの感想をいただいた。実際に行動し、伝えることができ、イベントの効果は期待できた。

このようにして、地球温暖化への知識・理解を深め、行動に移してもらうべく、活動した。今年も開催を試みたが、新型コロナウイルスの流行により、開催・企画を行うことができなかった。

そのため、今年は何ができるのかを原点である環境問題に戻って考えた。すると、環境が悪化しているというインターネット記事が多いことに気付いた。書籍を確認すると、環境が改善している実例が紹介されていることもあるため、過去から現在の変化したデータに着目して環境問題を考察している。参考になりそうな書籍を探していたところ「FACTFULNESS」という本に出会った。話題になっている本である。環境についての記述があり、そこには「人々の環境への意識は、他の世界規模の問題に比べて非常に高い」というように書かれていた。十四ヶ国で実施した、環境に関するクイズの平均正解率は八十六パー

セントもあるのだ。十人のうち、八人以上は、地球温暖化について理解しているということだ。ここから、地球温暖化への人々の理解度は高いと私は判断した。今年は、データやインタビューを基に環境について多くの人に深く理解し、行動に移してもらえるように計画を進めている。

また、新型コロナウイルスの流行により、地球環境は良くなっているという。人の移動が減り、二酸化炭素の排出量が大幅に削減された。良い事の少ない新型コロナウイルスだが、地球には少し優しくなったかもしれない。そして七月からは、ビニール袋の有料化が始まった。買い物では、一人一人が思い思いのマイバッグを持参し、色とりどりのバッグを持つ人々が行き交うようになった。これは、多くの人が意識している証拠であり、エコだと思う。

地球温暖化や環境問題は、多くの人が理解し、意識していかなければならない。世界中の人々が協力していく必要がある。対策を「対策」ととるか、それとも「新しい暮らし方」ととるかで変わってくるのではないか、と考える。私の考える新しい暮らし方とは、地球に優しい、生活を楽しむ暮らし方のことだ。例えば、ビニール袋の有料化により、多くの人がマイバッグを持参する。そこで、可愛いバッグ、かっこいいバッグ、高機能のバッグなどお気に入りのバッグを選ぶことを楽

しめる。普段、車で行くところを歩いてみると、綺麗な花が咲いたり、美しい景色に出会えたりと、新しい発見をするかもしれない。そのように、生活を楽しむ暮らし方が、地球を守ることにつながる。地球を守ることが、生活を楽しむきっかけにつながる。多くの人がこの新しい暮らし方になっていけば、環境は少しずつ良くなっていくと考える。環境問題はテクノロジーで解決することは難しい。私たちは、技術の進歩のために、地球に負担をかけてきたのではないだろうか。もう一度、自身の生活を見直してみませんか。

共に考えよう 環境問題